

日本学術会議の新たな展望を考える有識者会議

「行政改革による日本学術会議の変化と課題」

日本学術会議 19 (H15.7-17.9), 20 期 (H17.10-20.9) 会長 黒川 清

●21 世紀になって科学アカデミーの役割の急速な変化

- ・ 日本学術会議の本来の使命とは何か
- ・ 科学者コミュニティの中での中立的な合意と社会
- ・ 政府との関係性
- ・ 社会との関係性
- ・ 科学アカデミーの国際連携

1) 陳情型の意見発出から俯瞰的な政策提言への変換

2) 総合科学会議との車の両輪説

3) ユニークヴォイスを形成することを目指

4) 国内外社会での役割と責任

5) 国際科学アカデミーの活動

●私の時代 に体験した日本学術会議の法律改正

●19 期の活動 (法律改正まで)

- 1) 会員一人一人が日本学術会議のアンバサダーとなるべし
- 2) 各府省からの要請に答える形で ベストの科学に基づく
中立的政策提言を発出

●法律として日本学術会議の新しい基盤を可能とした事項

1. 所管を総務省から内閣府へ ー各省庁を超える組織とした
2. 会員は 210 人のまま、連携会員を 2,000 名に。

●20 期以後、法律として課題が見えてきた事項

1. 定年制度の在り方
2. 任期が 6 年で、3 年ごとに半数が変わること
3. その他